

## 塩浜地区における自然環境学習施設の考え方（市川市）

1. 自然環境学習や研究施設の中核となるような環境系大学研究室の集積や大学と民間企業が連携した環境学習共同施設の施設整備。
2. 公園、護岸等の整備により、人々が自然とふれあい、学び、海と親しむ土地利用を図る。
3. 市民やNPOなどと連携した三番瀬の環境を修復・管理していくソフトな仕組みをつくり、賑わいと安らぎ、うるおい、海辺の雰囲気を感じるシンボリックな空間機能の確保を図る。

# 整備イメージ



# 断面イメージ



# (市川市所有地前面) 環境学習エリアのイメージ

## 自然再生の場の基本的な考え方

- 自然の営力や変化に合うように改修していくはじめからの定型はない。
- 現在の護岸を撤去し、防護ラインを施設敷地の背後に回す。

導入機能、施設の位置・規模・形状等については今後検討していく。

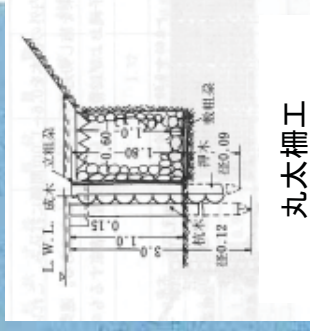
導入機能、施設の位置・規模・形状等については今後検討していく。

高潮への防護機能をもった護岸。

丸太柵工や粗朶などの伝統工法を利用した土留め。

満潮時の高さが確保できる高さ。波のうちあげを考慮して、当初は+3.0m程度とする。

モニタリングをしながら徐々に前浜をつけていくことにより将来的に可能な限り海と陸との自然的連続性を回復する。



丸太柵工



粗朶沈床

図2-5-17 (市川市所有地前面) 環境学習エリアのイメージ